



**JAPAN
LEATHER
AWARD
2017**



**JAPAN
LEATHER
AWARD
2017**





JAPAN
LEATHER
AWARD
2017

Grand Prix



ジャパンレザーアワード 2017 グランプリ

田中利明さん

個人



1.グランプリは、水に濡らすと転写した北斎の浮世絵がくっきり濃く浮かび上がる「浮世絵靴」。2.ミシン縫いもお手の物。工房には革漉き機などもそろえる。3.ファッションへの関心が高い田中さん。手がけるレザーアイテムは、身につけていて楽しくなるようなものばかりだ

独自の転写技術を活かした独創的な「浮世絵靴」

レザーブランド「TALI (タリ)」を運営しつつ、母校の「ヒコ・みづのジュエリーカレッジ」にて講師アシスタントを務めている田中利明さん。『ジャパンレザーアワード』初参加にして、みごと2017 グランプリを受賞した。オリジナリティのある作品の着想は、どのように得たのだろうか。

「初めて革に転写をしたのは、学生時代の卒業制作です。ちなみに、その時のテーマは『ニューマテリアル』。いろいろ考えた結果、新聞紙の上にビニール素材のアイテムを長期間置いておくと、ビニールの方に新聞紙のインクが移ることに思い当たり、そこからヒントを得ました」

その後、試行錯誤を繰り返して転写の技術を磨き、雑誌広告やヌード写真などをプリントしたユーモアあふれるレザーアイテムを次々に制作。マルシェなどで販売すると、想像以上の手ごたえがあった。そして今回、アッパー全体に葛飾北斎の浮世絵を大胆に転写した「浮世絵靴」を出品。その創造性が高く評価された。

「作品の特長としてあげられるのは、床面に浮世絵を転写している点です。単純に銀面よりプリントしやすく、

コストも下げられる。それに、みんなが使わない床革を主役に仕立てたい、という思いもありました」

こうして、シンプルなダービーシューズに浮世絵が施された唯一無二の作品が完成した。紙の繊維が革を覆っているため、経年変化で繊維が削られる、あるいは水で濡らすと浮世絵がはっきりと浮かび上がるユニークな仕上がり。この受賞を励みに、田中さんはこれからの制作活動に力を注いでいく予定だ。

「最近は、記念品制作に転写の技術を使うことが増えています。たとえば、結婚式の写真をプリントするなど、お客様のオーダーがあれば柔軟に対応しています。今後も、まだ誰もやっていない、オンリーワンなものづくりに取り組んでいきたいですね」





Footwear

フットウェア部門

[フューチャーデザイン賞]

Winner

吉田遼平さん
個人



「イギリスのパンクカルチャーがイメージソースです」と話す一足は、馬のたてがみを用いてモヒカンを表現。加えて、独特なシボとしなやかさが特徴的なシュリンクレザーをベースにボリュームなシャークソール、ゴア部分はサンダーボルトのデザインを施すなど、とことんアバンギャルドに仕上げた。



2位
内山友徳さん
MADOROMI

[ベストデザイン賞]

Winner

田中利明さん
個人



ぼってりとしたフォルムのシューズに、葛飾北斎の『富嶽三十六景』や『凱風快晴』といった浮世絵をプリント。「日本人特有の奥ゆかしさを念頭に、派手にならないようさり気ないトーンを意識しました」。また雨や水に濡れることで、グラフィックが鮮明に浮かび上がる驚きの仕掛けも施した。



2位
山岸由圭子さん
大塚製靴株式会社



Bag

バッグ部門

[フューチャーデザイン賞]

Winner

三木直人さん
Naoto+ m



「軽さとタフさを両立するため、橋をイメージソースにデザインしました」。見た目のおもしろさだけでなく、腕に挟んでクラッチバッグのように持てたり、椅子の背に挟んでおくなど、様々なシーンにおいてのユーザビリティを取り入れている。



2位
長谷川佳苗さん
個人

[ベストデザイン賞 2作品]



Winner

和田孝幸さん
Bubona Design



特殊な芯材を通して手にフィットするようにした手縫いハンドルや物の出し入れをしやすいラウンドジップなど、ミニマルなデザインながら機能美を追求している。

Winner

鈴木成之さん
オーベルズ



上質なコードバンの滑らかな風合いや気品に満ちた艶感、繊細な三つ編みによるバイピングで、落ち着いたあるクラシカルな表情と女性ならではの柔らかさを表現した。



2位
森谷敦子さん
個人



Fashion

ファッション部門



[ベストデザイン賞]



中村英二さん
個人

「食虫植物のウツボカズラのユニークなシルエットをイメージしました」というポーチは、特徴的なシェイプを表現するため、しなやかなベジタブルタンニンレザーで制作。直線を使わずカーブのみで表現された立体的なフォルムは、オブジェのようなアートを感じさせた。



2位
橋本 恵さん
株式会社 吉田



Students

学生部門



最優秀賞

廣瀬友和さん
東京都立
城東職業能力開発センター
台東分校

「レザーのみを使って、スニーカーのような履き心地、そして高いファッション性を目指しました」。アップはメッシュ編みにし、通気性と足を包み込むような柔らかな履き心地にし、ソールは肉厚のヌメ革を用いて伝統工芸の飾り結び“花結び”に仕上げているので、クッション性にも優れている。



2位
武智鶴久実さん
専門学校
ヒコ・みづの
ジュエリーカレッジ



Free

フリー部門

[フューチャーデザイン賞]



濱口真奈さん
ANAM

「三世代にわたって受け継げるものをテーマに、子どもの成長と共に深みが増すレザーのおまごセットを作りました」。食パンやミルクなど、アイテム毎に牛と羊のヌメ革を使い分け、柔らかさや質感に変化をプラス。使い込むことによって唯一無二の表情に仕上がる。

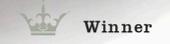


2位
春日徳子さん
有限会社
アテリエオーバ



Special

特別賞



浜崎誠也さん
ATW Japan

「あえて実用性のないアイテムにトライしたくて、絶対に乗ってはいけないスケートボードを作りました」。デッキ全面にカービングと透かし彫りによるインレイで西陣織をイメージした美しさを表現。独創的なアイデアと正確無比なテクニックによって、和と洋のカルチャーを見事に融合させた。



日本最大のレザープロダクトコンペティション



天然皮革を生かした製品の優秀作品を選出するジャパンレザーアワードが、今年で10年目を迎えた。合計302作品を長濱雅彦審査員長、ドン小西特別審査員をはじめとしたプロ審査員が大阪、東京会場で審査。また作品応募者と皮革業界の関係者がコミュニケーションできる場を提供するなど、審査会自体が次のトレンドを生み出す絶好の機会となった。



審査会は大阪と東京の2会場で行われた。1次・2次審査会では一般の来場者にも作品を公開。2次審査会では出品者の交流会も行われた

Japan Leather Award 2017

<http://award.jlia.or.jp/2017>

受賞作品展示

受賞作品は右記の日程で、「阪急うめだ本店」にて展示されます。間近で見て、実際に触れて、革の魅力を最大限に感じてください。

大阪・梅田 1月24日(水)～30日(火) (2018年)

阪急うめだ本店

住所：大阪府大阪市北区角田町8-7
開催場所：10階 うめだスーク中央街区
<http://www.hankyu-dept.co.jp>



一般社団法人 日本皮革産業連合会 (JLIA)
JAPAN LEATHER AND LEATHER GOODS INDUSTRIES ASSOCIATION

www.jlia.or.jp